

2022年度 北海道内スーパーストア売上高ランキング

イオン北海道が3年連続首位へ**～価格競争続くなか、上位50社の売上高合計は前年度比1.5%減～****はじめに**

円安や原材料価格高騰の影響などから食料品を中心とする値上げが相次いだ流通小売業界。新型コロナウイルスの5類移行による人流回復のなかでも顧客獲得競争は一段と熾烈を極めていいる。道内のスーパーストア業界に目を転じると2020年3月にイオン北海道(株)がマックスバリュ北海道(株)を吸収合併するなど、従前より大手グループによる系列化や寡占化が進む一方、中小規模のスーパーストアを取り巻く環境は厳しさが増している。

帝国データバンク札幌支店は、企業概要ファイル「COSMOS2」(登録社数147万社)を対象に、2022年度(2022年4月期～2023年3月期)に決算を迎えた道内企業(約7万社)から、スーパーストア経営者を抽出、売上高ランキング(不動産賃貸収入等を含む)を作成した。なお、売上高は推定値を含む。

～調査対象～

1. 原則として生鮮3品を扱い、セルフサービス方式を採用する法人
2. 北海道内に本社を置きスーパーストアを展開する法人
3. 北海道内に本社を置き店舗展開する生活協同組合(大学生協を除く)
4. 売上高は不動産賃貸収入等を含み、店舗数は上記の対象店舗とする

調査結果(要旨)

1. 2022年度のランキング第1位は、イオン北海道(株)。売上高は前期比0.3%減の3396億5900万円を計上し3年連続しての首位となった。第2位は(生協)コープさっぽろ。第3位は(株)ラルズ、第4位は(株)ホクレン商事、第5位は(株)ダイイチ。
2. 大手3強のグループ別売上高は、第1位が店舗数167、売上高3396億5900万円のイオン北海道(株)。第2位は(生協)コープさっぽろ及び業務提携する(有)魚長及び(株)中央スーパーのグループ。第3位はアークスグループ。
3. 上位50社の売上高合計は1兆2113億6600万円で前年度比1.5%減。上位10社の売上高合計は1兆788億3900万円で同2.1%減。上位50社の増収企業(横ばい含む)は23社、減収企業は27社。

1. 売上高ランキング ～ 第1位はイオン北海道、第2位はコープさっぽろ

ランキング第1位は売上高3396億5900万円（前期比0.3%減）を計上した**イオン北海道（株）**で、3年連続しての首位となった。同社は、2020年3月1日付でマックスバリュ北海道（株）を吸収合併している。第2位は売上高3072億8000万円（同4.4%減）の**（生協）コープさっぽろ**。第3位はアークスグループの中核、**（株）ラルズ**で売上高1408億2000万円（同0.7%減）。**（株）ホクレン商事**は同0.6%増の売上高550億3300万円第4位となった。また前年度第6位だった**（株）ダイイチ**は同5.7%増の売上高470億9500万円を計上して第5位にランキングされた。

2022年度 北海道内スーパーストア売上高ランキング

（金額単位：百万円）

順位	前年 順位	法人名	所在地	店舗名	店舗数 (決算時)	決算期 (月)	2022年度 売上高	2021年度 売上高	伸び率 (%)
1	1	イオン北海道(株)	札幌市	イオンほか	167	2	339,659	340,796	▲ 0.3
2	2	(生協)コープさっぽろ	札幌市	コープさっぽろ	107	3	307,280	321,541	▲ 4.4
3	3	(株)ラルズ	札幌市	スーパーアークスほか	74	2	140,820	141,844	▲ 0.7
4	4	(株)ホクレン商事	札幌市	ホクレンショップ ほか	54	3	55,033	54,720	0.6
5	6	(株)ダイイチ	帯広市	ダイイチ	22	9	47,095	44,570	5.7
6	7	(株)道北アークス	旭川市	スーパーチェーンふじ ほか	41	2	43,568	44,385	▲ 1.8
7	8	(株)福原	帯広市	フクハラ ほか	42	2	42,088	42,225	▲ 0.3
8	5	(株)東光ストア	札幌市	東光ストア ほか	27	2	39,380	46,030	▲ 14.4
9	9	北雄ラッキー(株)	札幌市	ラッキーほか	32	2	37,977	40,098	▲ 5.3
10	10	(株)道南ラルズ	北斗市	ラルズマート ほか	18	2	25,939	25,526	1.6
11	12	JR北海道フレッシュキヨスク(株)	札幌市	JR生鮮市場	9	3	22,809	15,107	51.0
12	11	(株)道東アークス	北見市	ラルズマート ほか	14	2	19,885	20,156	▲ 1.3
13	13	(株)豊月	苫小牧市	フードD	12	1	14,269	14,741	▲ 3.2
14	14	(株)津司	札幌市	卸売スーパー	7	4	11,500	12,400	▲ 7.3
15	15	(有)魚長	函館市	生鮮夢市場 ほか	17	2	9,346	9,834	▲ 5.0
16	16	(株)ダイゼン	鷹栖町	DZマート	23	9	7,635	7,043	8.4
17	17	(株)モリワキ	札幌市	北海市場	5	12	6,040	6,033	0.1
18	18	(株)東武	中標津町	東武サウスヒルズ ほか	2	1	5,150	5,180	▲ 0.6
19	20	(株)ハピオ	音更町	ハピオ	1	3	3,877	3,730	3.9
20	19	(株)一ウ商事	札幌市	マンボウ西野店	1	2	3,750	3,750	0.0

※1 イオン北海道(株)は2015年9月より(株)ダイエーの北海道地区の総合スーパー9店舗を承継

※2 マックスバリュ北海道(株)は2015年9月より(株)ダイエーの北海道地区の食品スーパー7店舗を承継
また同年10月1日付で(株)いちまるよりスーパーストア14店舗を承継

※3 (株)道東ラルズは2016年3月に(株)篠原商店を合併、(株)道東ラルズは(株)道東アークスに商号を変更

※4 (株)ダイイチは2016年10月1日付で(株)オーケー(音更町)を吸収合併

※5 イオン北海道(株)は2020年3月1日付でマックスバリュ北海道(株)を吸収合併

※6 JR北海道フレッシュキヨスク(株)は2021年10月1日付で(株)北海道ジェイ・アール・フレッシュネス・リテールを吸収合併

2. 大手3強の売上高～イオン北海道が3396億5900万円で3年連続してトップに

大手3強の売上高を見ると、イオン北海道(株)が前期比0.3%減の3396億5900万円を計上して3年連続してのトップとなった。第2位は(生協)コープさっぽろ及び業務提携先の(有)魚長(函館市)、(株)中央スーパー(留萌市)のグループ。2019年9月に(生協)コープさっぽろと(株)中央スーパーは業務提携契約書を締結し、同グループの店舗数は128、2022年度における売上高合計は前期比4.7%減の3174億1300万円となった。

アークスグループ(道内本社6社)は店舗数216、売上高合計は前期比2.7%減の3116億8000万円で第3位となった。

2022年度(2022年4月期～2023年3月期)大手3強の売上高

●イオングループ売上高

(単位:百万円)

企業名	店舗数	2021年度	2022年度	伸び率 (%)
イオン北海道(株)	167	340,796	339,659	▲ 0.3
合計	167	340,796	339,659	▲ 0.3

■イオン北海道(株)は2015年9月より(株)ダイエーの北海道地区の総合スーパー9店舗を承継

■マックスバリュ北海道(株)は2015年9月より(株)ダイエーの食品スーパー7店舗を承継。

また同年10月より(株)いちまるのスーパーストア14店舗を承継

■2020年3月1日付でイオン北海道(株)はマックスバリュ北海道(株)を吸収合併

●(生協)コープさっぽろ及び業務提携先売上高

(単位:百万円)

企業名	店舗数	2021年度	2022年度	伸び率 (%)
(生協)コープさっぽろ	107	321,541	307,280	▲ 4.4
(有)魚長	17	9,834	9,346	▲ 5.0
(株)中央スーパー※1 ※2	4	1,866	787	▲ 57.8
合計	128	333,241	317,413	▲ 4.7

※1:(株)中央スーパーは2019年9月に(生協)コープさっぽろと業務提携契約書を締結

※2:(株)中央スーパーの2022年度は決算期を2月期→9月期へ変更したことに伴う7カ月間の変則決算

●アークスグループ売上高

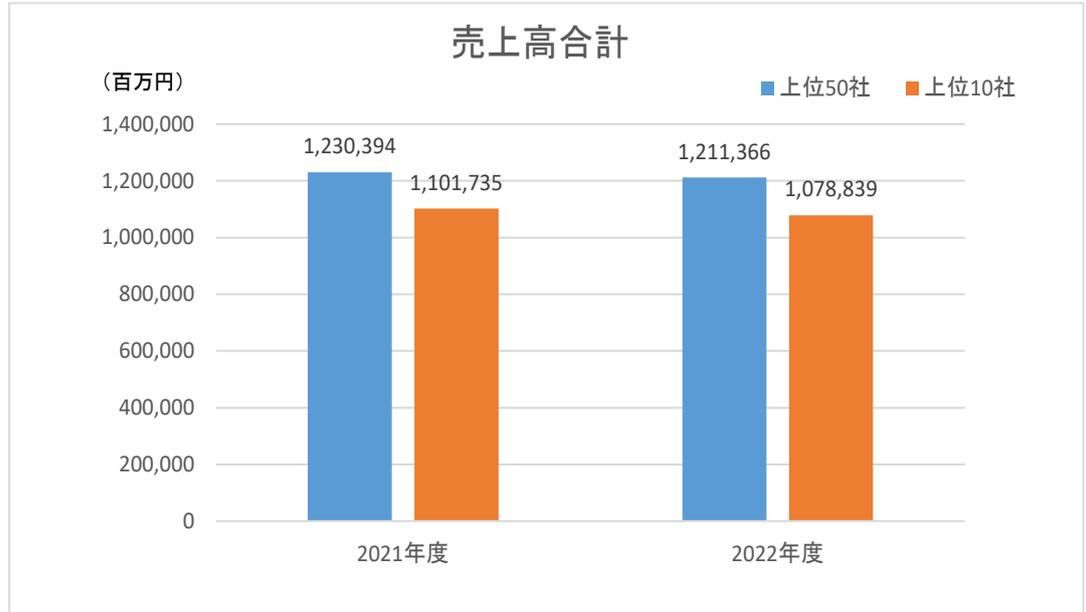
(単位:百万円)

企業名	店舗数	2021年度	2022年度	伸び率 (%)
(株)ラルズ	74	141,844	140,820	▲ 0.7
(株)東光ストア	27	46,030	39,380	▲ 14.4
(株)道北アークス	41	44,385	43,568	▲ 1.8
(株)福原	42	42,225	42,088	▲ 0.3
(株)道南ラルズ	18	25,526	25,939	▲ 1.6
(株)道東アークス※1	14	20,156	19,885	▲ 1.3
合計	216	320,166	311,680	▲ 2.7

※1:(株)道東ラルズは2016年3月に(株)篠原商店を合併、(株)道東ラルズは(株)道東アークスに商号を変更

3. 上位50社売上高合計 ~1兆2113億6600万円で前年度比1.5%減

売上高ランキング上位50社の売上高合計は、1兆2113億6600万円となり、前年度(1兆2303億9400万円)から1.5%減で推移した。上位10社の売上高合計は、50社合計の89.1%を占める1兆788億3900万円で、前年度(1兆1017億3500万円)から2.1%減で推移。



上位50社に占める上位10社の売上高合計の構成比は前期(89.5%)から0.4ポイント減少したものの、寡占化が続いている。売上高が前年度比増収(横ばい含む)の企業は上位50社中23社、減収企業は27社となり、減収企業の数が上回った。

4. トップ10企業の動向

スーパーストア売上高ランキング推移(2013年度~2022年度)

順位	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
1	(生協)コープさっぽろ	イオン北海道(株)	イオン北海道(株)	イオン北海道(株)						
2	イオン北海道(株)	(生協)コープさっぽろ	(生協)コープさっぽろ	(生協)コープさっぽろ						
3	(株)ラルズ	(株)ラルズ	(株)ラルズ	(株)ラルズ	(株)ラルズ	マックスバリュ北海道(株)	マックスバリュ北海道(株)	(株)ラルズ	(株)ラルズ	(株)ラルズ
4	マックスバリュ北海道(株)	マックスバリュ北海道(株)	マックスバリュ北海道(株)	マックスバリュ北海道(株)	マックスバリュ北海道(株)	(株)ラルズ	(株)ラルズ	(株)ホクレン商事	(株)ホクレン商事	(株)ホクレン商事
5	(株)ホクレン商事	(株)東光ストア	(株)東光ストア	(株)ダイイチ						
6	(株)道北アークス	(株)道北アークス	(株)東光ストア	(株)東光ストア	(株)東光ストア	(株)東光ストア	(株)東光ストア	(株)道北アークス	(株)ダイイチ	(株)道北アークス
7	(株)東光ストア	(株)東光ストア	(株)道北アークス	(株)道北アークス	(株)道北アークス	(株)道北アークス	(株)道北アークス	(株)福原	(株)道北アークス	(株)福原
8	(株)福原	(株)福原	北雄ラッキー(株)	北雄ラッキー(株)	(株)福原	(株)福原	(株)福原	(株)ダイイチ	(株)福原	(株)東光ストア
9	北雄ラッキー(株)	北雄ラッキー(株)	(株)福原	(株)福原	北雄ラッキー(株)	北雄ラッキー(株)	北雄ラッキー(株)	北雄ラッキー(株)	北雄ラッキー(株)	北雄ラッキー(株)
10	(株)ダイイチ	(株)道南ラルズ	(株)道南ラルズ	(株)道南ラルズ						

[注1]イオン北海道(株)は2015年9月より(株)ダイエーの北海道地区の総合スーパー9店舗を承継
 [注2]マックスバリュ北海道(株)は2015年9月より(株)ダイエーの北海道地区の食品スーパー7店舗を承継。
 また同年10月1日付で(株)いちまるよりスーパーストア14店舗を承継
 [注3](株)ダイイチは2016年10月1日付で(株)オーケー(音更町)を吸収合併
 [注4]イオン北海道(株)は2020年3月1日付でマックスバリュ北海道(株)を吸収合併

イオン北海道(株)は、食品においては、北海道産食材を使用した商品開発に注力、カボチャやコーンなど北海道産の旬の食材を使用したコロッケやスープを開発するなど、オリジナル商品を約 800 品目開発し業績に貢献した。衣料、余暇関連の商品としては外出需要の高まりにいち早く対応、オリジナル商品のアウター「パーフェクトフーディー+eco」が好調に推移、ビジネス、学校行事関連の商品拡充に努めた。売上高は前期比 0.3%減の 3396 億 5900 万円を計上した。

(生協) コープさっぽろは、主力の店舗部門は、改装により「きたひろしま店」と「西岡店」は一時休業となったが、前期中にオープンした「しろいし中央店」、「やまはな店」の売り上げが加わったうえに、10 月には「そうえん店」をオープン。既存店においては「巣ごもり需要」の一巡も見られたが、組合員数は期中で約 5 万名増加を達成した。売上高は前期比 4.4%減の 3072 億 8000 万円を計上した。

(株) ラルズは、各店舗の業態変更、改装、リニューアルを計画的に実施することで、集客力アップや顧客サービスの向上に積極的に取り組んだ。「巣ごもり需要」に落ち着きが見られるなかでも、主力である生鮮 3 品に対する需要は堅調に推移、売上高は前期比 0.7%減の 1408 億 2000 万円を計上した。

(株) ホクレン商事は、食品スーパーでは、前期に「エーコープうらほろ店」、「エーコープ雨竜店」を閉店したため、その分の売り上げが減少した。こうしたなか、既存店においては、リピーターを中心として安定した集客維持に努めたほか、採算確保に向けた取り組みのなかで購買単価の上昇なども寄与した。売上高は前期比 0.6%増の 550 億 3300 万円を計上した。

(株) ダイイチは、令和 3 年 11 月に開店した「平岸店」の集客が好調に推移。「啓北店」、「白石神社前店」、「めむろ店」、「自衛隊前店」のリニューアルにより、集客状況は堅調を維持した。十勝産食材、セブンプレミアム商品の取り扱い強化などで顧客の利便性を高め、売上高は前期比 5.7%増の 470 億 9500 万円を計上した。

【内容に関する問い合わせ先】

株式会社帝国データバンク 札幌支店 担当:柳澤、吉原、松田

TEL 011-272-3933 FAX 011-272-3934

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。

当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。報道目的以外の利用につきましては、著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。